

きらり

記事内容

- ☆ 支部長挨拶
- ☆ 2022 年度活動報告
- ☆ 特別寄稿 佐藤直先生「ACP は百花繚乱 !?」
- ☆ 2023 年度活動計画
- ☆ 2022 年度郡山支部役員紹介

- 発行 2023 年 3 月
- 発行所 福島県看護協会
郡山支部
- 発行者 郡山支部長
阿部 初江

郡山支部長挨拶

福島県看護協会郡山支部 支部長 阿部 初江



福島県看護協会郡山支部長をさせて頂いております星ヶ丘病院の阿部です。会員の皆様そして他団体の皆様には、郡山支部活動へのご理解とご協力を頂き感謝申し上げます。

Covid19 で 3 密防止など社会生活の自粛や、人との距離の確保を余儀なくされました。令和 4 年度は少しずつ制限が緩和されましたが、夏の第 7 波では郡山地区で度重なるクラスター発生により、医療・介護の現場は非常に過酷な状況に立たされました。そして入院や入所されている方は家族と面会できない生活が続き、孤独を感じたり、コロナに罹患し訪問介護サービスが受けられなかったりと、様々な困難に涙した方も多くおられたことでしょう。現場では「これで良いのだろうか？」と悩みながらも様々な工夫で一人一人のケアやサービス調整に当たり、前に進んできたことと思います。

郡山支部活動は役員 23 名が中心となり、「人とのつながり」を大切に、そして前支部長から受け継いだ「元気に楽しく」がモットーです。2022 年度は、感染対策を講じ対面型で研修会・看護研究発表会・看護管理者懇談会等の開催、看護の魅力を発信する中高校への出前講座、理学療法士の方と協働した健康教室などの活動を行いました。次年度も「看護マインド」で仲間同士が集えるよう役員一同団結して活動して参ります。研修会や懇談会等に是非お気軽に和気あいあいとご参加頂けるようお待ちしております。共に語り・学び・リフレッシュして、ご自身のネットワークを広げるきっかけとなれば幸いです。また、次年度の「看護の日」事業は、中学生を対象に準備しておりますので、是非、親子で一緒にご参加下さい。

最後に、個人の力では解決できない問題や課題を組織の力で解決し、看護職である会員を守るよう看護協会の活動があります。入会がお済みでない方は、登録をお待ちしています。

2022年度活動報告 研修会・懇談会

共通研修会

2022年9月2日（金） 時間：14:00～16:30

場所：福島県看護会館みらい 参加人数：34名

「ACPを『知る』から『実践する』へ！」私たちが目指すアドバンス・ケア・プランニングとは？

講師：一般財団法人脳神経疾患研修所附属 総合南東北病院 外科 佐藤 直 先生

昨年に続き、ACPに関する研修会を開催しました。

今回は、一步前進して、「ACPを『知る』から『実践する』へ」をテーマに、講義とディスカッション、そして昨年好評であった「もしバナゲーム」を体験しました。参加者アンケートの結果は、満足したが86%で、今後の看護活動に活用したいと答えていました。

参加者の意見

- 患者・家族の常識と、医療人の常識にはズレがあることに気づいた。
- ACP介入のタイミングについて話し合った中で、ACPは“その人らしく生きること”に寄り添って考えることが基本であると学んだ。
- 講師から提示された事例を通してのディスカッションがあり、新たに気づくことが多かった。



「もしバナゲーム」

「あなたの余命はあと半年です」

医師からこのように言われたらあなたは
どう思いますか。

「もしバナゲーム」は、余命わずかな自分は何を大切にしてどのような価値観で生きるのか、他人と共有するカードゲームです。



特別寄稿

「ACPは百花繚乱!？」

佐藤 直 先生

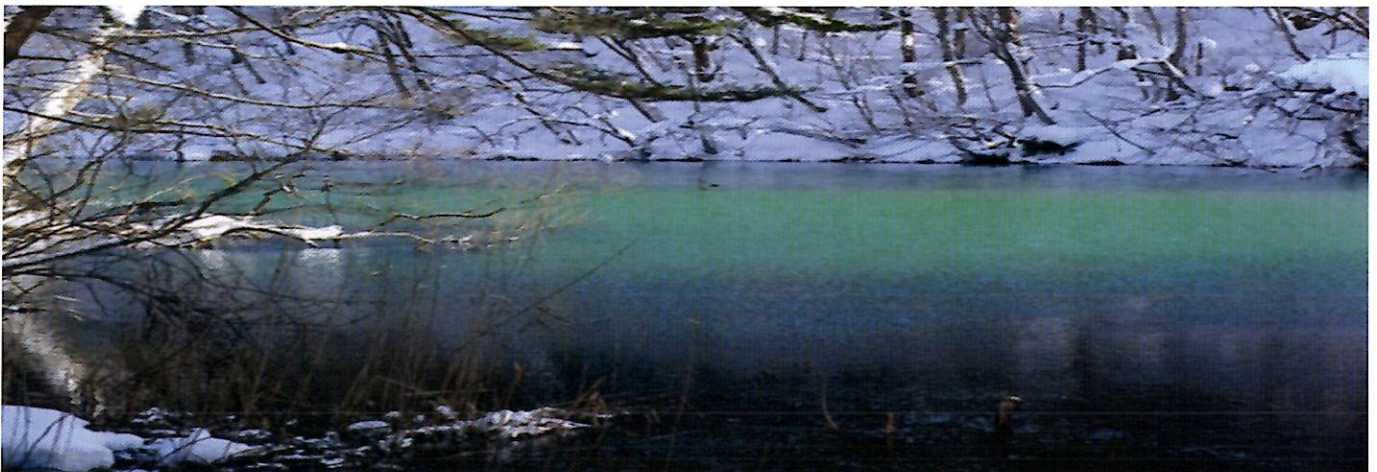
今回は昨年7月に開催されました日本緩和医療学会について書かせていただきます。

3年ぶりに現地開催（神戸国際会議場）となった学術大会には「待ってました」とばかりに全国から多くの参加者が集いました。その中で「交流集会」という企画があり、通常の演題とは違い「会場と機材は提供するので各自テーマを決めて主催者となり、60分のうち発表時間は半分以内とし、残りの時間は参加者同士の交流を主体に行うこと」という緩めのルールに則り開催するもので、学術的な内容よりも参加者が日頃の思いを「語り合い共有する」ことを目的とした企画です。

「全国学会で、1時間も自由に使っている」発表なんて前代未聞です。私はここで「ACPを病院や地域で広めるためのコツってありますか？」という（ユルい？）テーマで発表したところ、会場にはざっと150人以上が集まり、webでのストリーミング視聴者と合わせ261人の方から終了後のアンケートをいただきました。交流はスモールグループで語り合うつもりでしたが、人が多すぎてグループ分けも出来ず、急遽質問コーナーのような形で話し合う場としました。

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）は今や緩和医療でも主要なテーマとなり、他にも多くの講演やシンポジウムが組まれていましたが、これほど反響があるとは思いませんでした。アンケートの結果、参加者は職種別では看護師が85%、医師が9%で、そのほとんどが「ACPの必要性を強く感じている」と回答しました。ACPはどの職種が中心に行うべきか？に対しては、多い方から順に看護師>医師>MSW>臨床心理士でした。次に「自分の施設でACPは行われているか？」という問いに対しては、「一部で～ある程度行われている」が57%、「あまり行われていない」が43%で、行われていない理由は①知識不足 ②中心になる人がいない ③タイミングが難しい ④主治医の無理解 ⑤患者家族への啓蒙不足、などでした。蛇足ですが、最後に「当院のACPカンファレンスを見学したいか」という設問を作ったところ、87%の人たちが“Yes”と回答し、好意的な（励ましの？）感想がたくさん記載されており、まるでファンレターでももらったかのような幸せな勘違いにしばらく浸っていました。

そのような経緯もあり新年からやっと外部見学者を入れてZoomカンファレンスができる態勢としましたので、のぞいてみたい方、歓迎します！



佐藤先生撮影

— 看護管理者懇談会 —

2022年10月7日(金) 時間：14:00～15:30
 場所：福島県看護会館みらい 参加人数：22名
 第1部 「看護協会の動き」
 講師：看護協会常務理事 市川 より子
 第2部 「看護管理者と行政保健師との連携強化」
 ～看護管理者が行政保健師の役割分担や
 活動内容を知る～
 講師：郡山保健所健康政策課
 課長補佐 山口 多美子 先生



第1部では、福島県看護協会の会員の状況、組織、事業内容、新たな取り組み、そして日本看護協会の重点政策や重点事業についての講和があり、協会活動への理解を深めることができました。

第2部では、郡山市における保健師の活動についての講和がありました。その中で、行政と医療機関、あるいは行政と地域看護との連携について、具体的に知ることができ、行政を身近に感じることができました。

— 一般研修会 —

2022年11月11日(金) 時間：14:00～16:30
 場所：星総合病院メグレスホール 参加人数：30名

テーマ：「つないでいこう！多職種で支える地域完結型の心不全ケア」 講義&シンポジウム
 講師：① いがらし内科外科クリニック 院長 金子 博智 先生
 ② 星総合病院 慢性心不全認定看護師 李 民純 先生
 ③ 星総合病院在宅支援センター ケアマネージャー 菊地 恵 先生

参加者のご意見

- ・最新のガイドラインや治療について、事例を通じた実践例を学ぶことができた。
- ・地域で活躍している方の実践例から学ぶことができ、取り組みを具体的に理解できた。
- ・「療養者が納得いく疾病管理を工夫する」、「希望する生活との折り合いをつける」の2点が必要であることが、訪問事例を通して学ぶことができた。
- ・地域において多職種が連携して取り組んでいることの実際を知り、地域完結型のケアのあり方を学ぶことができ、今後の看護活動に活用していきたいと認識した。



2022年度活動報告 看護研究発表会

2023年2月22日(水)

時間：13:30～16:00

場所：福島県看護会館みらい

参加人数：34名

発表演題	施設名	発表者
1. 視覚・聴覚障害のある認知症患者の退院支援 —スタッフ全員で統一した対応を試みて—	星ヶ丘病院	林 恭子
2. 尿路ストーマ造設患者のストーマオリエンテーションの現状と課題 —受容過程を考慮した外来看護師と病棟看護師の連携を目指して—	星総合病院	宗像真由子
3. 局所免疫療法を受ける脱毛患者の負担因子と患者ニーズの調査 —脱毛支援の充実を図る—	星総合病院	佐久間記江
4. 尿道留置カテーテル抜去パス導入前後における評価	寿泉堂 香久山病院	渡部よしえ



講評・講義 テーマ「これが分かれば来年は発表できる！」 国際医療看護福祉大学校 鈴木 邦子

- 演題1では、退院後の生活の場を視野に入れ、さらに患者本来の人柄を尊重したチームの統一した看護の実際を知り、切れ目のない看護を目指した看護チームの取り組みに感銘を受けた。
- 演題2では、研究方法に則ったデータ収集・分析が行われ、意志決定に関わる看護の必要性を導き出していた。その後オリエンテーション動画を作成し活用しており、研究成果が高く評価できる。
- 演題3では、研究方法に則ったデータ収集・分析が行われ、長期療養者の負担度が高いことが示唆され、サポートの改善策を明らかにしている。今後の継続的な研究への取り組みを期待している。
- 演題4では、パスを作成し、活用後の評価のデータ分析の過程で、カテーテル使用に対するアセスメントの重要性を再認識していた。看護に対するチームの研究的姿勢が評価できる。

2022年度活動報告 地域看護活動

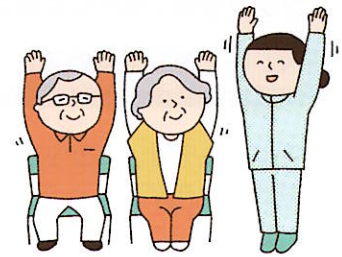
中央公民館主催「健康教室」

2022年5月23日 場所：郡山市中央公民館

参加者：30名 担当者：佐藤 裕子（総合南東北病院） 星総合病院リハビリスタッフ

認知症の予防法や早期発見チェックリストについての講和、星総合病院リハビリテーションスタッフによる運動の実践指導を行いました。

参加者の皆さんからは大変好評で、既に、令和5年度の依頼もきております。



看護出前講座

学 校	期 日	内 容	講 師
県立郡山商業高校	7月1日	仕事内容と看護の魅力・体験談・チーム医療・看護技術体験（心音・血圧・AED使用方法・車椅子操作方法）・看護職を志すに当たっての準備と心構え	野澤恵美子 (星総合病院)
三春町立中郷小学校	7月11日	看護職の仕事（内容・魅力・体験談） 看護職への道（資格の取り方、進路説明） キャリア教育	山崎 弘美 (坪井病院)
郡山東高等学校	7月22日	実際の現場の様子（特にコロナ）、仕事のやりがいと厳しさ、①仕事内容・魅力・体験・チーム医療 ②看護技術の体験	佐藤 裕子 (総合南東北病院)

「看護の仕事」「看護への道」「いのちの大切さ」など、仕事を通しての体験を基にした講和を行いました。次に、簡単な看護技術や模擬体験（聴診器で心音を聴く、血圧測定、AED使用方法、車椅子の操作、等々）を行い、看護職の魅力を伝えました。参加された児童・生徒の皆さんは大変熱心に耳を傾け、興味をもって看護体験に臨んでいました。



「看護実践事業」 まちの保健室担当者研修会

2022年10月28日 時間：13:30～16:00 場所：福島県看護会館みらい

▷発表1 郡山市中央公民館で開催した「まちの保健室」について

郡山支部地域看護委員長 総合南東北病院 佐藤 裕子

▷発表2 「まちの保健室」の今後について 一行政との連携を考えるー

郡山市保健所健康推進課 課長 菅野 恭子

▷グループワーク これからの「まちの保健室」の活動について考える

発表やグループワークを通して、行政との連携、多職種合同で活動、ACP啓蒙、普及活動への参加等についての意見交換ができ、今後の活動への有意義な研修となりました。



郡山支部が「まちの保健室」出展 いきいき健康づくりフォーラムin田村

2022年11月13日(日) 時間：10:00～16:00 場所：田村総合体育館

郡山支部では「まちの保健室」を出展し、阿部初江支部長、久保木優佳副支部長、山崎弘美地域看護委員の3名が担当いたしました。

健康チェック（血圧測定、体脂肪測定、握力測定等）を行い、資料を用いながらの健康相談、効果的な擦式アルコール手指消毒の指導を行いました。利用された方は32人で、8割が60代以上の方でした。利用者からは、「肥満防止だけでなく「貯筋」が大事」、という声が聞かれ、握力測定により筋力の維持や食事や運動について気にかけるきっかけとなったようです。また、健康診断を受けていない方が複数いたことも分かり、健診を促す働きかけをしました。今回の参加を通して、地域の健康課題に気づくとともに、同様に来店をしていた医師会や歯科医師会、薬剤師会、作業療法士会、栄養士会等の他の団体との繋がりを持つ機会となりました。



2023年度 事業計画

1. 研修事業	共通研修 テーマ：あらゆる場における意志決定支援 (9月予定)
2. 懇談会	自治体保健師と看護管理者との懇談会 (7月予定) 看護管理者(看護部長)懇談会
3. 研究発表会	2024年2月予定
4. 地域看護活動	地域保健活動：まちの保健室 出前講座 看護の日支援事業
5. 広報活動	『きらり』発行、支部ウェブサイトに掲載(福島県看護協会ホームページ)
6. 組織強化活動	他団体との連携、渉外会議・活動の参加

～福島県看護協会入会のご案内～

福島県看護協会は、保健師・助産師・看護師・准看護師のいずれかの免許を持ち、福島県に就職されている方、また未就職の場合は福島県在住であれば、どなたでも入会できます。会員になると、研修会(新人から管理者まで分野別に企画)や学会、交流会や各種イベント等への参加、「協会だより」からの最新情報等、サービスが受けられます。

公益財団法人 福島県看護協会ホームページ：<https://www.fna.or.jp>

2022年度 郡山支部役員紹介

支部長

阿部 初江 (星ヶ丘病院)

副支部長

榆 恵子 (坪井病院)
久保木 優佳 (公立小野町地方総合病院)
橋本 智子 (南東北第二病院)

書記長

宗形 明子 (太田西ノ内病院)

書記

鈴木 邦子 (国際医療看護福祉大学)

会計

斉藤 治美 (郡山医療介護病院)
松岡 明美 (寿泉堂総合病院)

教育委員長

今泉 昭子 (坪井病院)

教育委員

馬場 智恵 (太田看護専門学校)
荒井 志津江 (寿泉堂総合病院)

地域看護委員長

佐藤 裕子 (総合南東北病院)
吉田 純子 (今泉眼科病院)
阿部 友梨香 (寿泉堂クリニック)
飯田 尚美 (針生ヶ丘病院)
新田 由佳 (総合南東北病院)
横田 和江 (桑野協立病院)
新村 真奈美 (土屋病院)
渡辺 由香里 (福島県総合療育センター)
木村 夕子 (今泉西病院)
山崎 弘美 (坪井病院)
河野 千秋 (あさかホスピタル)
岩船 智美 (星ヶ丘病院)



活動の様子や情報をお伝えしていきます